

第3章. 景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針

1. 景観計画区域における基本方針

景観形成の基本理念や目標を受け、美濃市全域にあたる景観計画区域における基本方針は次の通りです。

1 自然景観の保全のために、日々の豊かな暮らしをつくり、暮らしの景観との調和を図っていきます。

自然景観は市民の暮らしの景観づくりを通じて、市民の手によって保全されます。また、市民は暮らしの景観づくりを通じて、豊かな日々の暮らしをつくることを目指していきます。



2 美濃市の景観の骨格をつくる河川に向き合い、河川景観を整備していきます。

河川景観は美濃市を代表する景観です。橋梁を渡るなど市民の暮らしとも結びついています。河川に向き合う河川景観を整備していきます。



3 伝建地区とその周辺に連続した景観を形成し、住む人と訪れる人の双方にとって心地よい質の高い景観を整備していきます。

伝建地区には住む人に加えて訪れる人が増えています。伝建地区の周辺に連続した景観をつくり、訪れる人が心地よく感じることができ、まちの魅力を発見できる機会をつくっていきます。



4 ものづくりの伝統が息づく田園集落景観を整備し、ものづくり景観をつくっていきます。

美濃和紙づくりの技術は現在も地場産業に受け継がれています。田園集落景観の中で綿々と息づく「ものづくり景観」をつくっていきます。



5

工業地や住宅団地などの新市街地景観を積極的に創造し、新たな美濃市の景観をつくっていきます。

歴史文化が息づくまちなみ景観の整備に併せて、新市街地の景観を創造していくことが調和する美濃市の景観づくりにつながっていきます。



6

美濃市の玄関口にふさわしい景観をつくっていきます。

美濃インター周辺は交通拠点としてその役割が増大しています。美濃市の玄関にふさわしい周辺の沿道景観をつくっていきます。



7

サイクルシティ構想の実現を目指し、景観眺望拠点をもうけ、眺望景観を保全し、整備していきます。

サイクリングを通じて、美濃市の景観を楽しむことができるサイクルシティ構想を実現させ、眺望景観の保全とサイクルシティづくりの両立を図っていきます。

また、地域の良好な景観を有しているビューポイント（眺望拠点）は、地域で育てる景観として保全と育成を図っていきます。



8

体験・ふれあい・学ぶ空間として、自然や水環境の保全と再生をはかり、景観づくりに活かしていきます。

長良川・板取川をはじめとする水辺や森林、田園などの日本の原風景を大切にし、そこに棲む魚や鳥・昆虫など様々な生物とふれあうことができる空間の保全と再生を図り、景観づくりに活かしていきます。



2. 景観計画誘導区域における基本方針

景観計画誘導区域における基本方針は次の通りです。

(1) 川湊地区の基本方針

①景観特性

川湊地区は「小倉山」、「川湊灯台」、「伝建地区（目の字）」を結ぶように旧牧谷街道などが走り、縦横ともに緩やかにカーブした沿道に町並みが連続し、長良川や小倉山などの水と緑の自然景観や美濃橋、曾代用水、岩陰遺跡などの歴史文化景観により、川湊独自の景観が形成されています。



歴史を伝える建物

②景観形成の目標および基本方針

川湊地区の景観形成の目標と基本方針は次の通りです。

■景観形成の目標

川湊の心を「つなぐ」 景観づくり

■基本方針

方針1 歴史と文化を感じさせる景観づくり

- 地区に残された旧跡や歴史的建造物を貴重な景観資源として活用するよう努めます。
- 時代に対応した、古いものと新しいものが調和したまちなみ景観形成を図ります。
- 商家の並んだ旧牧谷街道の歴史を伝える建築物や川湊地区の建物の特徴を保全し、「目の字」の町並みに連続するよう、活用に努めます。

方針2 地形や自然を活かした景観づくり

- 長良川両岸からの眺望景観を保全し、川に向き合う景観形成を図ります。
- 小倉山などの周辺地区と一体となる自然と調和したまちなみ景観形成を図ります。

方針3 地域の広がりをもった景観づくり

- 目の字や長良川などをつなぎ、回遊性をつくり周辺地区と一体となるよう努めます。

方針4 住民による景観づくり

- 花や植栽により街道などの統一感を演出し、歴史と自然を結ぶまちなみ景観形成を図ります。
- ベンチなどの設置により快適で楽しい歩行空間の創出に努めます。
- 看板類は落ち着いた町並みにふさわしい大きさ・デザインとします。

■川湊地区のイメージ図



(2) 美濃インター地区の基本方針

① 景観特性

美濃インター付近の県道岐阜美濃線は美濃市の重要な玄関口のひとつであり、各地区の観光施設などへつなぐ交通の要所でもあります。来訪者が、最初に美濃市のイメージをつくる箇所であるため、良好な景観形成を図ることが重要です。

区域の周辺では土地区画整理事業や沿道サービス系の商業業務機能の集積が予想され、新しい美濃市の景観づくりが求められています。



県道岐阜美濃線の沿道

② 景観形成の目標および基本方針

美濃インター地区の景観形成の目標と基本方針は次の通りです。

■ 景観形成の目標

美濃市の玄関口にふさわしい沿道景観づくり

■ 基本方針

方針1 自然と都市の賑わいが調和した景観づくり

- 沿道の屋外広告物は背景の山なみを考慮し、位置および素材、色彩、意匠などを工夫し、自然と都市機能が調和した景観づくりを行います。
- 四季を感じられる花や緑の植栽により沿道を演出し、自然と調和した沿道景観の形成を図ります。
- ガードレールなどを落ち着いた色彩にするなどの工夫により、沿道景観の向上を図り、自然と賑わいある景観が調和した歩行空間の創出に努めます。

方針2 屋外広告物のデザイン向上による沿道景観づくり

- 建築物などに設置する看板、広告塔などは、必要最小限度の大きさ、設置個数にとどめるとともに、その建築物や周辺の景観との調和に配慮します。
- 野立看板などを地面に接して設置する場合は、その足回りの修景や緑化に努めます。
- 道路標識や案内標識などの機能を見直し、デザインの統一を図り、沿道景観の形成を図ります。

■美濃インター地区のイメージ図



(3) 曾代地区の基本方針

① 景観特性

曾代地区は長良川の流れから形成された河岸段丘上に位置し、長良川の流れとともに暮らしが営まれてきました。江戸末期には農業用水として整備させた曾代用水沿いに道が開かれ、そこから暮らしが発展し、今も市街地と農山村をつなぐ地として自然と調和した景観が残っています。曾代地区には曾代公園、用水沿川の桜並木、うだつの上がる商家や蔵などが保全され、住民の快適な生活の場を形成しています。



曾代用水沿道の景観

② 景観形成の目標および基本方針

曾代地区の景観形成の目標と基本方針は次の通りです。

■ 景観形成の目標

水の音と暮らしを感じるまちなみ景観づくり

■ 基本方針

方針1 自然と暮らしを活かしたまちなみ景観づくり

- 地区の後背となる里山や田園の緑、長良川、曾代用水の青などの自然との調和を図ります。
- 曾代の町並みを維持・育成し、建築物の規模、色彩を工夫し、自然と暮らしに調和するファサード（外観）のデザイン化に努めます。

方針2 商家などの歴史的資源を活かした景観づくり

- 地区に残された旧跡や歴史的建造物を貴重な景観資源として保全するよう努めます。
- うだつの上がる商家や蔵など歴史を伝える建築物などを保全するよう努めます。

方針3 快適な歩行空間づくり

- 曾代用水を潤いある水環境空間とし、地区の景観軸として育てていきます。
- 四季を感じられる花や緑の植栽により沿道を演出し、自然と暮らしが漂うまちなみ景観形成を図ります。
- ガードレールなどを落ち着いた色彩にするなどの工夫により、まちなみ景観の向上を図り、快適で楽しい歩行空間の創出に努めます。
- 看板類は落ち着いたまちなみにふさわしい大きさ・デザインにします。

■ 曾代地区のイメージ図



(4) 蕨生地区の基本方針

① 景観特性

蕨生地区は大師山を囲むように日本瓦葺きの家並みが広がっています。集落には美濃和紙の産地として紙すき工房が位置し、和紙づくりの工程である「こうぞの寒ざらし」や「板干し」などの文化的な景観により、和紙の里の風情が漂っています。蕨生地区には紙すきの工程で使われた川屋が今も残り、生活としても利用され、水との付き合いが深い地区です。集落内の花壇や山裾にカタクリの花を地元住民の手で育てており、住民のまちへの愛着がうかがえます。



大師山麓の蕨生集落

② 景観形成の目標および基本方針

蕨生地区の景観形成の目標と基本方針は次の通りです。

■ 景観形成の目標

和 紙 の 里 の 景 観 づ く り

■ 基本方針

方針1 和紙の里の風情を楽しむ景観づくり

- 地区の後背となる里山、集落を流れる河川などの自然との調和を図り、日本家屋が並ぶ景観などを保全し、美濃和紙の伝統産業が感じられる景観づくりを行います。
- 河川の護岸や民家の擁壁などには丸石積などの自然素材を用いるように努め、里山や水との関わりが感じられる暮らしの景観を後世に継承します。

方針2 美濃和紙を活かした景観づくり

- 紙すき家や川屋など伝統産業を伝える建築物、こうぞの寒ざらしなどの伝統産業の景観を貴重な景観資源として活用するよう努めます。
- 蕨生の町並みや和紙の里の風情を読みとり、それを活用した建築物の規模、色彩を工夫し、自然と暮らしに調和するファサード（外観）のデザイン化に努めます。

方針3 風情漂う歩行空間づくり

- 四季を感じられる花や緑の植栽により沿道を演出し、里山の暮らしが漂う集落景観の形成を図ります。
- ガードレールなどを落ち着いた色彩とするなどの工夫により、集落景観の向上を図り、風情漂う歩行空間の創出に努めます。
- 看板類は落ち着いた町並みにふさわしい大きさ・デザインにします。

■ 蕨生地区のイメージ図

